

有終西小学校保護者説明会  
(通学区域に関する説明会)

会議録

日 時：令和5年10月12日（木）午後7時～午後8時32分

場 所：有終西小学校 ランチルーム

## 通学区域に関する説明会次第

日時：令和5年10月12日（木）

午後7時～

場所：有終西小学校ランチルーム

- 1 開会の挨拶
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
- 2 事務局紹介・教育長挨拶
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
- 3 説明
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
- 4 質疑応答・意見交換会
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
- 5 閉会の挨拶

## 1 開会

## 2 教育長挨拶

『黒猫のタンゴ』の曲は、50年ほど前、文化会館の連合音楽会で小山小学校の5年生と6年生でリコーダー演奏した曲である。なぜこれを紹介したかという、今日、小学校連合音楽会があった。有終西小学校の児童たちがトップバッターとしてしっかりやってくれて、ありがたかった。そして、冒頭の挨拶でこの曲を流して、思い出話で恐縮だが、私も50年前にこのステージに立ってとても緊張したが、発表が終わった後にたくさん拍手をもらって嬉しかったことを覚えている。だから、今日は皆さんも良い思い出作りをしてほしい。それと同時に、皆さんの頑張る姿を見せてもらいたい、そして大野市の教育を預かるものとして、皆さんに何ができるか、どうしてあげるのが良いかということを考える時間にもしたい、と話してきた。演奏が進むにつれて、みんなが精一杯拍手をして盛り上げるという雰囲気ではいっぱい連合音楽会だった。本当に良い子たちだと思いながら、2時間を過ごさせてもらった。

さて、今日は、皆さんの方からアンケートをいただいて、進学先の中学校について検討を始めて半年以上がたった。その間に教育委員会としては、通学区域審議会を立ち上げて、総合的に正式に検討をしてきた。7月、8月、9月と3回審議会を行い、9月の終わりに答申をいただいた。この後は、教育委員会として方針を決めていくことになる。9月の中旬に皆さんにご案内したように、本日はその答申いただいた内容についての説明と、ご提案にきたということである。大体の状況については、報道や市ホームページでほぼ分かると思うが、細かい内容についてご心配やご不安もあろうかと思う。本日はいろんなご質問をお受けして、説明をさせていただいて、ご理解を深めていただきたいと思います。どうぞよろしく願います。

## 3 説明

### 【事務局より答申について説明】

## 4 質疑応答・意見交換会

事務局：ご意見、ご質問等があれば願います。

保護者：まず、答申の中に有終西小学校の児童は全員開成中学校に行くのが望ましいと出ているが、これは決定か。

教育長：結論から申し上げて、教育委員会としてはこの答申に沿って方針を決定

していくことになるので、答申から大きい変更は考えていない。

保護者：ということは決定か。

教育長：まだ正式決定はしていないが、10月末に行う定例教育委員会で正式決定となり、これに沿った方針になる。

保護者：ではここで質問や意見が出てても変わらないのか。

教育長：もちろんご意見等お伺いをするが、しっかりと検討を重ねてきた結果なので、今日ご意見を伺う内容は、答申の中のきょうだいに関することや、個別の案件に関することについてのご意見やご要望についてということになる。

保護者：今回の内容は、陽明中学校から開成中学校に変わるということなので子どもに大きく関わってくる。アンケートを見ると、もちろんこのままで良いという意見も当然あると思うが、なぜ審議会が開催されている中で、保護者や子どもたちにそういう話が一切なかったのか。

教育長：審議会を開催する前に、保護者対象の意見交換会を開催している。その中で保護者のご意見を十分聞くつもりで開催した。資料6にあるように、6月1日に開催している。

保護者：意見交換会というのは知らなかったし、認知がされていないと思う。それに、アンケートの話は知っていたが大体賛成と反対が半々と聞いていたので、校区が変わるとは全く思っていなかった。変わるという話があれば、もっと保護者も聞きにきていたと思う。

教育長：定例教育委員会や審議会も公開をしているし、このような意見交換会も開催している。意見交換会のことは、6月1日開催ということで学校を通して通知を出していて、ライブ配信をすることも併せて案内をさせていただいている。

保護者：審議会委員の中に、なぜ当事者である有終西小学校の校長先生やPTA会長は入らなかったのかという疑問がある。

教育長：そのことも検討して、審議会の中で校長とPTA会長の意見を言うただく機会を設けた。そして、有終西小学校のことなので、委員には当事者の方々というより各地域の方々をお願いした。

保護者：それは納得がいかない。もし有終西小学校のPTA会長や校長が委員にいたら、審議会の最中でも、こういう意見が出ているという話が保護者の方に伝わってきて、また意見として取り上げられたのではないかと思う。

教育長：それはそうかもしれない。ただアンケートに皆さんの意見をたくさん書いていただいたので、それを参考に取り上げさせていただいた。

保護者：なぜ、来年4月から全員が開成中学校に行かなければいけないのか。有終東小学校はまだそのような話が進んでいないのに、なぜ、有終西小学校から先に始めるのか。審議会の内容を読ませていただいたが、例えば選択制にするとか、いろんな意見が出ていたと思うが、そのような意見は全く聞き入れられ

なくて、結局全員が開成中学校へ行くことが決定した上で進められているように感じる。個人的意見で申し訳ないが、私の息子は陽明中学校に行って勉強したいという思いを持って、この一年間過ごしてきた。それが突然、新聞で開成中学校に決定したと聞いてとてもショックを受けている。来年4月から学校区域を変更するという話なのに、説明する時期が遅すぎないか。今は10月なので、もう半年ほどしかない。会議録を読んでいると、きょうだいの問題やいろんな問題があったが、できれば数値化したアンケートを再度取ることをしてほしい。前回のアンケートは全部文章だった。開成中学校へ行きたいか行きたくないかというはっきりした内容ではなく、文章だけのアンケートだった。もう少し時間をかけて進めていってほしい。令和6年4月からどうしても通学区域を変更しなければならないのか。

教育長：ご意見はよく分かる。きょうだいのことや、通学距離や友だちのこと、そして部活動のことなどいろんなことにそれぞれ事情があると思う。アンケートを取ることについて、審議会の中でも今のような意見がなかったわけではない。ただ、賛成、反対がはっきりしない部分がたくさんあったと思う。やはりきょうだいの問題とか距離の問題があって、きょうだいの問題はこのように解決すれば大丈夫か、距離の問題は、自転車通学やいろんな課題が解決すれば大丈夫かということを考えていくと、それが解決しないうちに賛成なのか反対なのかなかなか決定できないのではないかと思った。

時期が遅いと言われたが、これまでの経緯を話すと、2月にアンケートをいただき、3月の教育委員会でこの件についてどうするかということについて、教育委員の中で審議をした。ただ、教育委員というのは5名だけなので、30分や1時間で結論が出る問題ではない。これはやはり審議会を立ち上げて、正式に検討すべきであるという結論になった。そして4月に、審議会を立ち上げる人選など、いろいろな手続きがあり、7月にスタートした。手続きの問題で必要な時間がかかったということである。そして、半年前までには答えを出すというつもりで、最速でさせていただいている。結果的には、あと半年ということになった。それから有終東小学校の件についても、当然この審議会に話が出たし、市議会でも、有終東小学校の方はどうなんだという話が出ている。我々も有終西小学校と有終東小学校が分断されていることをどうにかしなくてはと思っている。有終東小学校については、まだ小学校に入っていない未就学の人たちが関わってくる。それは令和8年度の小学校再編辺りが一つの区切りになるのではないかと考えている。50年間ずっと続いてきた有終西小学校の分断というのは、このタイミングで対応していく必要があると考えている。

保護者：有終東小学校がまだ審議されていないのであれば、有終西小学校も今すぐに決めなくてもいいのではないか。なぜ有終西小学校だけ決める必要があるのか。

教育長：有終西小学校と有終東小学校の違いは、有終西小学校は中学校への進学先が課題である。有終東小学校の場合は、小学校の入学先が問題になってくる。

保護者：有終東小学校にも開成中学校に行く子がいるはずだ。陽明中学校と開成中学校に分かれて、開成中学校に行く少数派がいるはずだが、そこに関してはなぜ議論されないのか。

教育長：その点についても、一番心配なのは線路を越えて学校へ通っている有終東小学校の子たちである。陽明中学校ではなく開成中学校に行っている弥生町や神明町の子たちはいるが、少し有終東小学校の事情は違う。

保護者：有終東小学校にも陽明中学校と開成中学校に進学する子がいる。私も有終東小学校出身なのだが、有終東小学校の中でも数人だけが開成中学校へ行って、ほとんどの人が陽明中学校へ行く。それを問題視していないのに、なぜ有終西小学校だけ決めるのかちょっと分からない。来年度、有終東小学校の子は2人だけが開成中学校へ行くはずだが、その方が問題があると思う。

教育長：そのことも当然課題にはなってくると思うが、今、有終西小学校の保護者の中からそういう話が出てきていて、早くどうにかしなくてはならないという思いがあるので、このように説明させていただいている。

保護者：子どもたちは、自分は陽明中学校へ行く、開成中学校へ行くということをも1年生からずっと言っている。中学校に行くのが楽しみという状態だったのに、急に開成中学校に行くという話になって、本当は陽明中学校に行きたいのに、変わるなら中学校に行きたくないと言っている子が結構いる。中学校に行く時はワクワクした気分になると思うのに、もう中学校へ行きたくないとか、友だちと離れたくないとか言っていて、将来的にはそういう子は不登校になっていくことも考えられる。こういうことを教育委員会の人たちは何も考えていないのではないのか。

教育長：校区の変更という大きな問題になってきているので、今年は子どもたちにはあえて聞かなかった。去年の6年生には聞いている。その時に、なぜ有終西小学校だけが二つに分かれなくてはいけないのか、開成中学校も陽明中学校も一緒にした方がいいんじゃないかという意見が多かった。なぜ有終西小学校だけ分かれなくてはいけないのかという疑問に、大人としてちゃんと答えられるか。分かれることになったのは50年前である。その当時は有終西小学校が学年で4クラスあって、そして開成中学校と陽明中学校の学校規模をそろえる必要もあったと思う。それで有終西小学校は真っ二つになったということである。それが今は1クラスになって、人数も30人弱と少なくなり、このままずっと放っておいていいのか。6年間一緒にやってきて、自分は陽明中学校に行くはずだと思っておられたことはよく分かる。しかし一方で、このまま放っておくわけにはいかないという思いがある。皆さんのおっしゃることも十分よく分かるし、それをたてようと思ったら何もしないのが一番いい。だが、本当に

そうだろうか。これから有終西小学校は児童数が1クラス20人ぐらいになってくるが、ずっと半数に分かれてしまうということになる。

保護者：二つに分かれるのがかわいそうだという気持ちも分かる。ただ、今ここで急にバツサリ変わってしまうというのがあまりにもひどいと思う。本当にそうなら、小学校入学前から、進学先はどの小学校、どの中学校だと考えるようにしていただいたらいいんじゃないかと思う。急に来年からとおっしゃられても、自分は陽明中学校に進学するとずっと思って過ごしてきたから、全員が開成中学校に行くことになったという話をしたら、ものすごくショックを受けていた。自分だけ陽明中学校に行くなら、みんなと一緒に開成中学校に行きたいけど、実際、現実的ではない。急に来年からというのはあまりにも急すぎる。前から分かっていたら、ある程度納得して考えると思うが。今、中学校の再編に合わせてする必要があるのかと思う。

保護者：私は今PTA会長という立場なので、まず最初の方で話に出ていた審議会について、校長と会長が意見を言いに行ったと言われたが、意見を言うというより、アンケートを提出するに至った経緯だけを淡々と話してきた。保護者の中にも仲の良い人がいるので、私が以前アンケートを出した時もSNSで発信して、友だちの友だちから意見が届いたこともあった。アンケートを提出した時点ではこんなに早いペースで話が進むと思っていなかったもので、保護者の方たちにも小学校の再編時の意見として提出したから、来年とか再来年とかの話ではないと思うという話をしていた。私自身も一保護者として、答申の中にあるきょうだいに関しては配慮するというのに当てはまる家庭である。最初は、決まりそうな雰囲気になった時に、自分の子どもには、みんなは開成中学校へ行くけどうちは陽明中学校だと言っていたが、去年の卒業式を見ていると、やっぱりみんな一緒の中学校に行かせてあげたいという思いもあって、今となっては好きな中学校を選べばいいと言っている。上庄中学校の子が開成中学校へ、和泉中学校と尚徳中学校の子が陽明中学校へ行くことと決まった時、教育長はかなり対話をしてくれて、今の2校にまとまったと思う。有終西小学校のことにに関して、急ピッチで進める必要があるのか疑問である。このままでいいのかというこの対話も続けて、2年後、3年後というところに落ち着かなかったのかというのを聞きたい。

教育長：校区内のいろいろな事案については、個別の事案として相談いただきたい。そして先ほどの話の中に、会長や校長が委員会の中になぜ入れなかったのかということがあったが、会長や校長ははっきりした意見表明をすることが立場上難しかったのではないかと思う。ピッチが早すぎるのではないかという話だが、我々としては、中学校の新体制が整う時に一緒に流れが作れたら一番良いのではないかと考えた。

保護者：有終西小学校の子たちは、中学校へ行く時に離れたりまた新しい出会い

があったり、貴重な環境にいると思う。これは人生にとってとても良い経験になると思う。友達と別れて寂しいけど、新しい友だちといろいろなコミュニケーションをとりながら、能力を高めながら新しいコミュニティを作っていく経験ができるという機会をぜひ奪わないで欲しい。この9年間を通しての教育課程、指導体制、教師の養成の中の文言に生徒が同じ学校に通い続けるとあるが、そこに意味はないと思う。それなら極端に言えば、先生も一緒に行くべきだ。生徒が同じ学校に行くことが、方針に従うこととは違うのではないかと感じている。

教育長：今おっしゃる考え方も理解できる。こういう状況で、子どもたちは新しい友だちができるのだから、人生の良い経験もできるのではないかというその意見に反対を表明するつもりもないし、否定するつもりもない。ただ、今このタイミングで分かれるか、同じところへ行くか、その両方を比較した時に、ここで分かれなければならないことに説明がつかない。

保護者：今、6年生だが、ずっとあなたは陽明中学校で、この子は開成中学校だと言ってきたことに5年間の下積みがある。この時点で、みんな一緒になるとなったら、子どもに対してその説明はつかない。それでも自分は陽明中学校に行きたいとうちの子は言っている。意見交換会でもあったことだが、見直しを考えるのは難しいという意見は必ず出てくるし、50年間このままだったのだから急スピードで変える必要はないし、もしかしたらこのままでもいいのではないかと思う。もう決まったんだからこうしようという感じに、皆さんの納得がいかないんだと思う。

教育長：何回も申し上げるが、ここで二つに分かれるということに、子どもたちへの説明ができないと思う。小学校から中学校へ上がる9年間で、このタイミングで分かれることに、同じ中学校へ行くこと以上の意味があるのか。

保護者：私は開成中学校でもいいという、どちらかといえば賛成派にかわりつつあったが、皆さんの意見をお聞きしていて、例えば、住所とかきょうだいとかの理由で陽明中学校に行く子が何人か出るとすると、今までの現状よりもさらに陽明中学校に行く子が少なくなってしまう。さらに、肩身が狭くなってしまうことの方がかわいそうな気がしてきた。現状よりも人数が少なくなってしまうと、過渡期の間の子どもたちが一番かわいそうに思えてきた。

教育長：今おっしゃることもよく分かる。子どもたちの思いもあるだろうし、保護者の思いもいろいろとあるだろうが、開成中学校へみんなと一緒に通っていただけとありがたいと思う。

保護者：全員で陽明中学校に行くという意見はないのか。現状、陽明中学校に行くのが大体20人、開成中学校に行くのが10人。なぜ開成中学校なのか。

教育長：答申の中にもあるように、これからずっと先のことまで考えて、大野市が2つの中学校になって、2校が平等な教育が受けられるようにと考えると、



学校規模というの大きな要素になってくる。全員が陽明中学校へ行くということになると、片方だけが増えてしまうので、この選択しかなかった。

保護者：これは大人の事情としか思えない。数合わせのような気がする。それなら去年の6年生は分かれるのが寂しいと言っていたのに、なぜ今までどおり分かれてしまったのか。

教育長：これは大きい課題である。去年の場合はこういう議論というのがなかったので、動くことはできなかった。新中学校の制服や体操服などについては子どもたちの意見も聞いている。彼らの希望通りの採用ということになる。全ての中学校の子どもたちに聞いて、結果的に開成中学校も陽明中学校も同じ回答で、それが同じ制服になった。ただ、この校区の問題については、子どもたちが決めるといふより、大人が責任を持って決めていく必要がある。

保護者：それも分かるが、やはり子どもたちの意見も聞いてもらいたい。この大きな課題なのに急ピッチで進むということが納得いかない。

教育長：時期がもう少し猶予があった方がいいということか。

保護者：これだけいろんな意見が出ているのに、急に進まれても納得がいかないし、説明会も遅すぎる。意見を言っても無駄なのではと思ってしまう。

教育長：皆さんが納得できるような時期というところのどのくらいの期間が妥当か。

保護者：来年、有終西小学校に入学する子に、入学する時から進学先の中学校を説明していけば納得すると思う。小学校6年間かけて説明をする。

教育長：令和8年度に小学校の再編がある。それまでは少し時間があるが、この辺りは下のお子さんをお持ちの方はどうか。

保護者：保護者として、子どもに説明する時間が半年では短すぎる。やはり50年間続いていた通学区域をなぜ半年で変えなきゃいけないのかというのは本当に疑問に思っている。50年も続いていたら地域も文化もみんながそれになじんでいると思うし、ある程度の期間を設けないと難しいと思う。

教育長：あまり時間を置かずに進めたいが、何かのタイミングでと考えると、例えば令和8年度だったらまだ時間があると思うがいかがか。

保護者：その時にはまたこういう意見は出てくると思うが、それは致し方ないと思う。令和8年度だったとしても令和10年度だったとしても、やっぱり不都合が出てくる親もいらっしゃると思うが、この半年間の期間で納得しろというよりは、まだこちらのことを考えてくださってるというすり合わせがしやすくなると思う。有終西小学校が分かれることが問題なのであれば、そもそも有終西小学校に通うことを考え直すというのも一つの案だと思う。有終西小学校の校区のあり方から考えてもいいのではないか。

教育長：今までの皆さんの話から、時期が拙速すぎるという意見が強いかと思う。有終東小学校校区の検討をこれから進めていくので、同じタイミングで、令和8年度に照準を合わせていくというのが一つの案と考える。有終東小学校も二

つに分かれていて、これもちゃんと小中をつないであげたいと思っている。そうすれば有終西小学校と有終東小学校の分断と一緒に解決できることになると思うがいかがか。

保護者：有終西小学校にだけこういう問題が出ていて、有終東小学校から開成中学校に行く予定の子が、なぜこちらにそういう話はないんだと言っている方がいるので、平等にした方がいいのではないかと思う。

保護者：令和8年度というのが良いかどうかは分からないが、アンケートを参考に決定されたと思うが、アンケートは開成中学校区の方が出された意見なので、両方の意見をちゃんと聞いて検討いただきたい。

保護者：もしこのまま決定したとして、気になっているのは様々な個別事案というところだ。丁寧に対応するというのはどの程度の対応をしてもらえるのか。どうしても嫌だったら、今までもあったように、例えば住所をとりあえず変えて開成中学校へ行くとか、そういう対応をとれば通るのかとか、どんな感じか。

教育長：それぞれ思いがあると思うので、その辺をしっかりと聞いていきたいとは思っている。住所を変えて校区を変えるとか、そんな負担はかけたくないと思う。みんなが納得して行って欲しいと思う。今ここに個別の事案という書き方はしてあるが、それ以外は何があるのかと言われると、例はあげにくい。それぞれ話を伺って、個別に対応ということになる。

保護者：私はもともと有終西小学校区ではなくて、乾側区だったが、乾側小学校がなくなるという話を聞いて有終西小学校に入った。校区の住所を見ると完全に陽明中学校になると思うが、有終西小学校に通っている子は住所は関係なく開成中学校に行けるのか、それとも陽明中学校に行くのかというのがはっきり聞きたい。

事務局：住所があるところの中学校というのが大前提なので、校区外から有終西小学校に通っていらっしゃる方については、今の住所がこの案のとおり陽明中学校区であるなら、陽明中学校に入学するのが妥当だと考えている。

保護者：家は校区外ではないが、本当に陽明中学校のすぐ近くなので、できれば陽明中学校に行きたい。陽明中学校に行けば1 km、開成中学校に行けば1.6 kmと全然違うし、距離は何年たとうが変わらない。家の近くに中学校があるのに、遠くの中学校に行くというのは子どもも負担がかかると思う。3年間だし、夏場は自転車通学させてもらえるならいいが、冬はやっぱり送り迎えしないといけないと思う。親が送り迎えできればいいが、毎日できるかと言われたら無理なところもある。こちらの学校の方が近いという人は、そういう配慮に入れてもらえるといい。

教育長：審議会でも、きょうだいと距離については随分議論していただいた。距離については、実際にどれだけ遠くなるのかを計ったところ2 km以内である。近い方なら陽明中学校になると思うが、ただ2 kmの範囲内ではあるのでその辺

はご理解いただければありがたいと思います、距離のことは答申では触れていない。

保護者：その分早く起きなくてははいけないし、やっぱり子どもに負担がかかる。

学校に行きたくないという気持ちになる可能性もないとはいえない。近い距離に中学校があるのに、なぜ遠くの中学校に行かなくちゃいけないのかという気持ちも出てくると思う。

保護者：今、開成中学校の自転車通学は、何kmから可能か。

事務局：開成中学校は1.5km。

保護者：1.4kmなら無理なのか。

事務局：中学校の自転車通学は、一律距離で決めている。具体的に申し上げますと、開成中学校から1.5kmは八間通りなので、八間通りから北側は自転車通学になる可能性は高い。開成中学校も新しい自転車小屋をつくっていて数も足りるとは聞いている。

保護者：冬はバス通学も可能になるのか。スクールバスを出してほしいと言っても多分無理だと思うが、徒歩通学は遠いし、毎日送り迎えはできないので、京福バスで通学することは可能か。

教育長：循環バス通学のことか。それは検討の余地はあると思う。市内を便利に循環できるように交通網を整備しているので、それほど無理な話ではないと思う。

保護者：令和6年4月から急に校区を変更するという時期に関しては、また、考え直していただけるのか。話し合っただけなのか。

教育長：話し合いはさせていただく。審議会では、あまり時間を置かずスピーディーに整備してあげた方がいいのではないかという考えもある中で、心積もりもあるので、早く説明していかないといけないという意見もいただいている。結論として、何のためにやるかと言えば、子どもたちや保護者が、将来的にもこちらの方が良いと思えるように考えるわけなので、反対意見の方が何名かいらっしゃる中で強行することはできないと思っている。今日の意見はしっかり受けとめさせていただきたい。

保護者：どうかよろしく願います。

保護者：学校への通知など、家の子が出さないだけかもしれないが、こまめにいろんな議論の内容や段階的なものを保護者にしっかりと伝わるようにしていただきたいと思う。PTA会長だけとかでは、全然話が伝わってこないのも、しっかりと保護者に対して発信していただきたいと思う。知っていたら、それなら少し違うのではないかと、そういう意見も出せたかもしれない。これからは、保護者にもう少し分かりやすく通知などをいただきたいと思う。

事務局：5月24日に、通学区域に関する意見交換会の開催通知を教育委員会から出している。学校を通して配布してもらっている。

保護者：子どもが通知を出さないのかもしれないし、自分たちにはまだ関係ない

と、思って通知は捨ててしまったのかもしれない。

保護者：やっぱり当事者じゃないと真剣に考えられないと思う。本当に自分たちの代で変わるとは思っていなかった。そういう意見がたくさんあると思う。

保護者：私はPTA会長をしていて、先ほどの5月の教育委員会からの案内は、私も子どもを通してもらっている。直接自分だけがもらっているということではなく、皆さんと同じようにちゃんと子どもを通してもらっているので弁明させてほしい。

事務局：いろいろな意見をいただき、感謝申し上げます。

## 5 閉会の挨拶